

「思春期のころ」

保健体育科 土方伸子

I はじめに

現在使用している保健の教科書の〈性への関心・欲求と性行動の選択〉という単元で、思春期にある男女の性意識や性行動の違いについて、単に読んで頭で理解するだけでなく、実感を伴った理解をさせたい、また、正しい物の見方・考え方を養い、誤解や偏見を持つことなく異性と上手く向き合える姿勢を身に着けさせたいと考え教材化を試みた。今回はその紹介と共に、他校生徒の様子をうかがう情報交換の場になることを期待し、発表を行った。

II 発表要旨

高校3年生女子117名（39名×3クラス）を対象に45分×2時間で実施した保健の授業及び授業後の本校生徒の感想について、以下のような流れで紹介した。

- 1 学力レベルに大差のない都内高校3年生男子約150名（3クラス）に実施した事前アンケート調査について
- 2 1時間目の授業内容について
 - ① 男子高校生と同様のアンケートを本校生徒にも実施・一旦回収
 - ② 男子高校生のアンケート結果を配布
 - ③ 一旦回収した本校生徒のアンケートを再配布
 - ④ 本校生徒と男子高校生のアンケート結果を比較、相似点、相違点等をまとめる
- 3 2時間目の授業内容について
 - ① 性ホルモンの働きと性差・個人差
 - ② 正しい性意識とは
- 4 本校生徒の授業後の感想

III まとめ

発表後、共学校の先生から、「共学でこの授業をやったらどうなるのか興味深い。男子は肉体的なつながりを求める傾向があると聞いて『そうかなあ…。』』と思った。最近の生徒は男女がとても仲良しで、頭と頭をくっつけるようにして何かを覗き込んでいる姿も見られる。それが男女の関係というのではなく、幼馴染のような関係に見える。」とのお声をいただいた。『草食化どころか草をも食まない若者』という新聞記事を目にしたこともある。教科書や指導書の記述が実態にそぐわなくなっているのではないか。授業者として、生徒の実態を正確に把握し、その時々生徒に合った適切な教材を提供しながら理解を深めさせる必要性を感じた。指導者自身が指導書を鵜呑みにし、偏った物の見方をしていなかったか、今一度振り返り、正しい理解につながる教材化の試みを今後も進めたい。